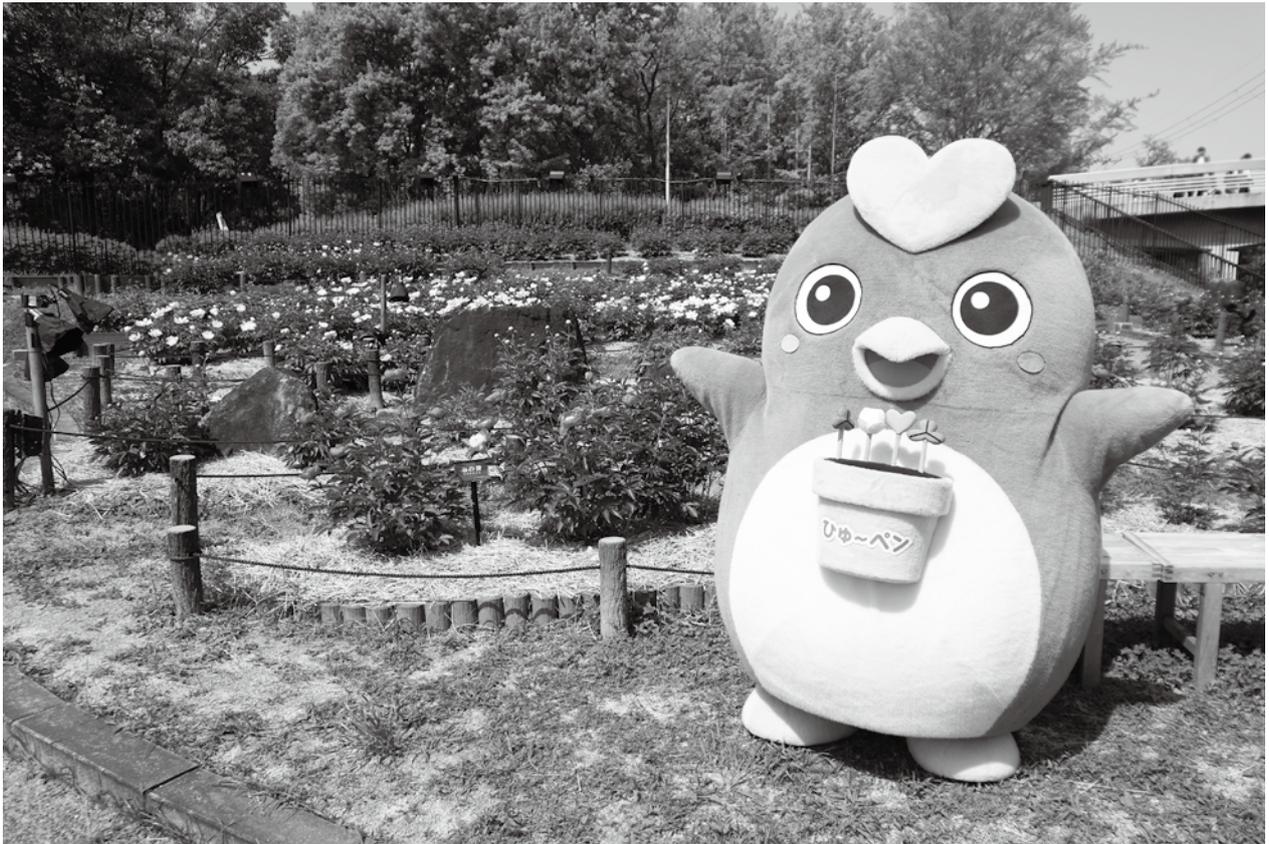


# ちいき人権 WORLD

発行  
2025年度 春号 (No.118)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会  
 委員長 土田 紀康  
 連絡先 TEL 072-924-9853  
 FAX 072-924-0134  
 編集：「ちいき・人権・World」編集委員会



朝のシャクヤク園とひゅーペン。久宝寺緑地では、毎年ゴールデンウィークの時期にシャクヤク園がオープンし、さまざまなイベントが行われています。とてもきれいに咲いていました。

## も く じ

- |                                                                    |                                                  |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 2 P..... 国連の女性差別撤廃条約に<br>日本が締結して 40 年                              | 11 P..... 白根さんと考えよう！世界の人権 52                     |
| 7 P..... トッカビ探検隊                                                   | 12 P..... 出会いを楽しんで…part 2                        |
| 8 P... 2024 年度第 2 回人権啓発映画上映会「獄友」                                   | 13 P..... うーさんのおすすめ本<br>/ 八尾市人権尊重の社会づくり審議会市民委員募集 |
| 9 P... 女性の健康セミナー～毎日をもっと快適に～<br>/ 八尾市人権啓発推進協議会<br>第 5 回人権啓発推進委員養成研修 | 14 P..... 気ままにおしゃべりシネマ 60                        |
| 10 P..... 拉致問題映画上映会「めぐみ」<br>/ 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会委員募集               | 15 P..... 勝手にきゃらふる 82                            |
|                                                                    | 16 P..... 2025 年じんけん楽習塾のご案内                      |

# 国連の女性差別撤廃条約に 日本が締結して 40 年 男女共同参画は進んできたのか 子育て事情から考える

今年、日本が国連の女性差別撤廃条約に締結してから 40 年を迎えます。昨年 10 月 17 日には国連において女性差別撤廃委員会 (CEDAW) による日本政府の第 9 回報告書の審査が行われ、CEDAW は日本政府に 60 に及ぶ懸念事項と勧告が示された総括所見を発表しました。その中のジェンダーの固定観念では、日本政府の第 5 次男女共同参画基本計画における取り組みを評価しつつ、「教育、雇用、公的活動を含む家族および社会における女性と男性の役割と責任に関する家父長制的な態度と根強いジェンダー・ステレオタイプが執拗に存在していること」(パラグラフ 25 の (a), 日本女性差別撤廃条約 NGO ネットワーク 訳より) が指摘されています。

4 月より従業員 300 人を超える (これまで 1000 人超) 事業所でも男性育休取得率の公表が義務化されることで、取得する男性が増えることも予想されますが、まだまだ女性の負担が大きいのではないのでしょうか。

そこで現在子育て中のお二人から、子育て事情やそれにとまなう女性の負担を聞き、考えていきたいと思います。

## あいこさん (仮名) の場合

インタビュー当日 (土曜日)、「夫が仕事になってしまって、、、」と申し訳なさそうに子ども二人を連れて来られたあいこさん。「子どもたちにも私の事を聞いてもらってもいい」とお話が始まりました。

### 家族の状況と日常の様子

夫は自営の建設関係、あいこさんは教育関係で正規職員をされています。10 歳 (小学 4 年生) と、4 歳 (保育園年中) の子育て中で、下のお子さん

の育児休暇を終え、短時間勤務の 1 年を終え、フルタイムに戻って 1 年が終わったところです。

短時間勤務での 1 年は補助職員もいてゆとりがあったようですが、今年からのフルタイム勤務はこんな感じです。

5:30 起床 子どもの持ち物・朝食準備

6:30 夫が子どもを起こして出勤

7:45 車で家を出る 下の子を保育所に (上の子は学校が 8:00 からなのでこれ以上早く出られない。職場まで 40 分。車が混んでいたら遅刻することもある。就業時間を 30 分ずらして 9:00 - 17:30 にしてもらっている。) 職場についたら、息つく暇なく終わる。膀胱炎は職業病。



18：00 までに職場を出たいが難しいときもある。保育園に迎えに行き、学童に19時までに迎えに行く。民間学童は長期休みに給食があり非常に助かっている。普段の買い物は週末にまとめ買いと配達食材を利用。

19：30 には晩ご飯を食べたいのでセット食材と冷凍食材活用で、調理時間を短縮している。

21：00 に子ども就寝。朝が早いから、本当はもう少し早く寝たいけれど、無理。夫は子どもの就寝後の帰宅になる。

主観的には育児の割合は、昨年まで自分が時短だったので、95：5。今年からは、フルタイムになったので、90：10。どちらが休むか？というようなときは休んでもらうことが増えたそうです。

### どうして、女性側の負担が多くなるの？

出産や授乳といった生物学的な役割から、女性が社会的な不利益を受けやすい状況があると思うと語るあいこさん。

夫の価値観は昭和世代にありがちなもので、女性が家事育児を担うという潜在的な期待が存在する。それはおかしいと思っているが、伝える労力を使う余裕がないのが現実で、諦めていってしまう。職場の理解はある方だと思うが、替えの効かない職種なので、結局自分に返ってくるので、頑張ってしまう。夫は自営なので、制度的なサポートはないとのことで、健康面や親子関係に影響が出るほどのワンオペぶりだそうです。

### 制度への要望

こんなサービスがあればいいなと思うことをお聞きしたら、たくさん具体的なことが出てきました。まずは早朝の学校の受け入れが欲しいそうで、もう少し朝早く出れたら、お迎え、帰

宅が早くなり余裕が出来ると思うということでした。民間の朝食堂や、ある市の小学校の朝7時からの子どもの受け入れの話を知ると、朝の時間で困っている人は多いのだと考えられます。また、子ども自身のこと以外の、自分のキャリアに関してや、家庭の細かな事の相談は、保育園や学校でできない。子どもの事に密接にかかわっているのに、自分の悩みを相談できる人がいない。学校にソーシャルワーカーの常勤配置があればいいと考えておられました。

あと、保育園に入所する際の加点基準については、「市外の職場への通勤時間について加点対象にしてほしかった」と切実でした。「入れただけまし」と思うようにしているけど、モヤモヤしたままだそうです。

### ジェンダー平等社会への想い

この社会の状況は、女性は仕事から離れることが多く、キャリアを諦める状況がある。男性は自己決定しない限りキャリアから離れる経験が少ないと思う。あいこさんは、もめたりケンカしたりすることを避けたいがために、今までは飲み会などの社会的な交流に参加する際、許可を得ていた状況があったそうで、最近では許可を得るのが面倒で、参加を控えることが多く



なってしまったそうです。

自分のキャリアについて将来も見えてきて、大学院に進みたいと考えていたが、春からの機会を得た。そこに夫に許可を得る状況に不満を持ちながらも、理解と協力を得るために必要だった。

子どもにとって、家庭のモデルが性別役割のモデルになるので、女性の苦しさの再生産をしないために、「家庭での性別役割の固定化を避ける必要がある」と語ってくれました。

ここで、子どもたちの限界を迎え、最後に一言ありますか？ときくと、「早く終わって欲しい！この状況」と心の叫び。いつごろ終わっているかと予想してもらったら、「下が4年生くらいかな。あと8年か〜。」とインタビューを終えました。

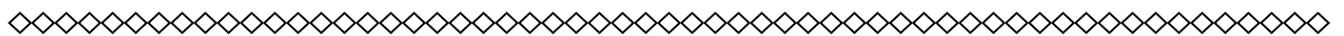
### あいこさんから話をうかがって

実際の子育てをしながら、サービスを調べたり、手続きなども全部女性の側であり、見えないケアに夫が気づいていないことが、時間的、身体的にだけでなく、精神的にもしんどくなる

理由だなあっと思いました。子育てをしているときに、夫より育児サークルの仲間が「子育ての同志だ」と思っている自分や仲間の事を思い出しました。また、子育て支援制度については、遠くの保育園に通うことのしんどさを味わった人が制度設計したら、こうはならないのではないかと思います。細かな基準が難しいのはわかりますが、公正な基準でないと納得感がない。「保育園落ちた。日本死ね」から7年。何かかわったのでしょうか？行政の管理職、学校の管理職、議会の場など、決定の場のジェンダー平等が大事なことは実生活に影響するということを痛感します。

「夫の許可」というくだりでも、家族のライフスタイルを相談して一緒に決めることを、子どもも交えてできれば、子どもの権利にもかかわって考えていけるのではないかと思います。

上のお子さんが高学年になり、自分のキャリア形成にも思いをもつあいこさんが、葛藤しながら、こどもにかかる負担を最小限にしながら、自分の夢をかなえたいと思うことを、「わがまま」とみられない社会であってほしいと思います。



### ゆうこさん（仮名）の場合

#### 家族状況と日常の様子

今回お話を伺ったのは、2人のお子さんを育てながら療育に通わせているゆうこさんです。夫もゆうこさん自身も正規職員で働きながら4歳と6歳のお子さんの子育て真っ最中。

上のお子さんは軽度知的障害と自閉スペクトラム症の診断を受け、療育支援を受けながら保育所に通い、この春から小学1年生に進学します。

「下の子は年中さんですが発達グレーゾーンと言われる状態です。療育手帳を持っていたのですが、1年ごとの更新の中で現在は所持していません。でも療育には通っています」

ただ、上の子が小学校入学にあたり、「地域の学校か支援学校がとても迷いました」と校区の学校にも良く話をきいたのですが、支援体制への不安や環境変化にとっても弱い子どものことを考え、支援学校への入学を選択されました。そのことによって、「通学バスの時間に子どもを見送って通勤するとなると就業開始時間に間に合



わないんです」「これまでは職場内でもずいぶん配慮してもらい時短制度も活用していたのですが、どうしようもありませんでした」と、15年務めた職場を今年の3月末をもって退職を選択されました。

## 療育施設の種類と目的

ゆうこさんは、子どもの発達支援のために、現在、3つの療育施設を利用しています。

**(運動系療育施設)** 平日は広いスペースで体を動かし、楽しく過ごせる施設に通っています。おやつを食べたり、トランポリンや滑り台などで思い切り遊ぶことで、子ども自身が「頑張ったご褒美」と感じられるよう工夫されているそうです。

**(個別療育施設)** 土曜日には、言葉の発達を促すために音楽を取り入れた発声練習を行う個別療育にも通っています。「発語が2語文しか出ない状態ですが、音楽を通じて少しずつ言葉を引き出せるように」と、ゆうこさんも前向きに取り組まれているようです。

**(幼児教室型療育)** 以前はフラッシュカードや文字学習なども取り入れた療育施設にも通っていましたが、年齢制限があり現在は卒業。今後は「苦手な勉強も無理なく取り入れられるように」と、『公文』を取り入れた療育を検討中とのこと。

## 送迎や日々の負担

毎日の送り迎えも一苦労です。長男を何かあっても柔軟に対応してもらいやすい公立の保育所に入れたかったのですが、次男と2園分離となり、自転車で1駅半先まで送り届けています。「2人を送って仕事に向かう電車に乗るまで40分かかるんです」と話すゆうこさんの言葉には、毎日の大変さが滲みます。



さらに、夫は「朝5時40分に家を出て夜9時に帰宅」と多忙を極めており、平日はほぼワンオペ状態。週末も「疲れてほとんど動けない」とのこと。「(仕事を続けたい気持ちも、家事育児の分担をしてほしい気持ちも) 諦めるしかないんですよ」と明るく笑う姿が印象的でした。

## 支援体制と今後への想い

上のお子さんが通う保育所は先生方も経験豊富で、手厚くサポートしてくれているそうです。

一方で、上の子の小学校進学には不安も。「地域の小学校の見学に行ったけど、座っていられず教室を飛び出してしまった」とのエピソードもありました。「支援学校は靴下の履き方など身辺自立が中心で学習の時間は1年生で、週に2時間ほどしかない」という現状に、とても悩んだと言われます。

落ち着いて座れないことや、会話が十分にできないことから支援学校を選択されましたが、「いざやりたいことができた時に、知識が足りなくて困らないようにしてあげたい」と、ゆうこさんの思いが伝わってきました。

毎日忙しく駆け回りながらも、お子さんの未来を見据えて、実質ワンオペ状態で一生懸命支えるゆうこさん。「(夫に) 頼った分だけ、うま





くいかなかったときの辛さもある」と苦しみを打ち明けながらも、最後には「それでも頑張るしかない」と前を向き続ける姿が印象的でした。その上で、家族の支えと周囲のサポートを受けながら、お子さんたちが笑顔で過ごせる日常を築いていけるよう願わずにはられません。

### ゆうこさんから話をうかがって

#### ●育児と家事のリアルな毎日

朝の支度から寝かしつけまで、ほとんどゆうこさんが担当。夫も夏休みなど一部サポートはするけれど、普段はなかなか難しい状態。

#### ●保育園・学校の送り迎え問題

近隣に住むゆうこさんの実家のサポートはありつつも、支援学校の送迎が大変。特に過敏性であるため誰でも送り迎えできるわけではないのが悩みどころ。しかし、送迎バスの時間が一律であることや、通学にはかならず親が付き添うことが求められ、正規職として仕事と両立することは難しい。

#### ●仕事との両立の壁

職場では時短制度もあるけど、小学校2年生までしか取れない。障害のある子どもを持つ家庭では、中学卒業まで延長してくれるような制度があればまだ働くことができたかもしれないという思いも話されました。

#### ●将来への不安と期待

子どもが一人で通える日が来るかもしれないけど、それまでのサポート体制を充実してほしい。

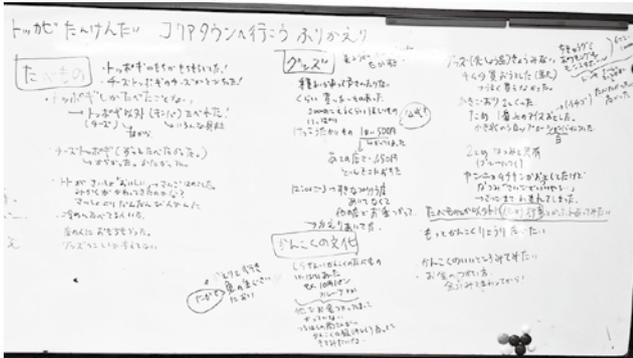
ゆうこさんのお話を伺って、単に「支援が足りない」というだけでなく、「支援の仕組みが、実際の生活とどう折り合いをつけられるのか」という視点の重要性です。制度は存在しても、利用のハードルが高かったり、柔軟性が欠けていたりすることで、結局のところ家族の一人、とくに女性側が大きな犠牲を払う形になってしまう現実があります。

また、家庭によって状況はさまざまであり、「誰でも送迎できるわけではない」「制度があっても年齢制限がある」といった制度の狭間の問題も当事者でなければなかなか想像が付きません。

しかしながら、あらためてゆうこさんの状況を通じて、女性の子育て、家事負担の大きさを痛感させられました。もちろん、バランスよく負担しながら子育てを進めている家庭もあるとは思いますが、総務省統計局が、2022年12月14日に公表した、「我が国における家事関連時間の男女の差～生活時間からみたジェンダーギャップ～」結果（2021年10月20日を調査期日として実施）によると、6歳未満の子どもを持つ夫妻と子どもの世帯について、夫と妻の1日当たりの家事関連時間をみると、夫は1時間54分、妻は7時間28分となっていて、いまだ大きな開きがあることが明らかになっています。CEDAWの勧告を受けどう改善するのか、国や自治体での取り組みが重要であるのは間違いありませんが、「男性」側の意識を変えていくことが求められていると思います。



# 「トッカビ探検隊」



NPO 法人トッカビでは、2024 年度に積水ハウスマッチングプログラム助成を活用し、「一人ひとりに目を向けて『トッカビ探検隊』プロジェクト」を、5 月から翌年 2 月にかけて実施しました。

このプロジェクトは、外国にルーツを持つ子どもたちが、自らの背景を誇りに思いながら生活できる社会をめざすものであり、子どもたちが自身の豊かな文化や出自について、自由に自己表現できる力を育むことを目標としています。取り組みにあたっては、次の 3 つのことを大切にしてきました。

- 子どもたちの「興味」「やりたい」「知りたい」「行ってみたい」といった気持ちに寄り添い、子どもたち自身の主体性に基づいた学びを大切にすること（大人の考えに誘導しない）。

- ひとりひとりの思いに目を向けること。

- 子どもたちがふらっと気軽に来られる「居場所」となるような雰囲気づくりを心がけること。

毎週の活動では、子どもたち自身が「やってみたいこと」を具体的に考え、その結果、次の 3 つのプロジェクトが実現しました。

1 つ目は「コリアタウンへ行きたい!」、2 つ目は「カピバラに会いたい!」です。

いずれの活動も、子どもたち自身で計画を立て、行程や必要な予算

を考えてスタッフにプレゼンを行い、実施後には振り返りを行うというサイクルで進めました。こうした経験を通じて、子どもたちは自ら考え、行動し、学びを深めていきました。

現在、次年度に向けて、再び積水ハウスマッチングプログラム助成に応募しています。採択されるかどうかはまだわかりませんが、今年 1 年で芽生えた子どもたちの探求心や意欲を、次のかたちへとつなげていけるよう、取り組みを続けていきたいと思えます。

昨年度の活動は、『トッカビ探検隊 2024 の活動』（A4 サイズ・全 16 ページ）として報告書にまとめました。ご関心のある方は、ぜひトッカビ（TEL:072-993-7860）までご連絡ください。送料（1 冊 140 円）をご負担いただけましたら、郵送させていただきます。



2024 年度第2回人権啓発映画上映会

「獄友(ごくとも)」 監督：金聖雄  
2025年3月8日(土)  
プリズムホール レセプションホールにて

# 獄友



『獄友』は、日々生活を送る中で、突然、いわれなき罪を課せられ、死刑もしくは無期懲役が確定され長期にわたる獄中生活を送ることになった5人の方のドキュメンタリー映画です。

この5人のうちの1人、袴田さんについては、昨年9月26日に静岡地裁にて再審無罪が確定し、多くのマスメディアでも取り上げられましたので記憶に新しいところかと思えます。加えてその5人のうち、杉山さん、桜井さん、菅谷さんについてもその前に再審無罪が確定しています。5人の皆さんはいわゆる冤罪被害者として極めて理不尽な日々を過ごすことになりました。たまたまこの5人の方たちが冤罪被害に合わただけで、私たちもいつどんなことでその立場になりえる問題だと思いました。「不運だったけど、不幸ではなかった。」と言えるその強さの裏に、社会の理不尽に対する本人にしかわからない想いがあると思えます。

狭山事件の石川一雄さんについては、映画(2018年)の中で、「来年こそは！」と元気なお姿を見て胸が詰まりました。上映会当日にもまだ再審請求中であり、再審に向けての動きと健康を祈った矢先、11日の夜に86歳で亡くなられたという訃報が飛び込んできました。「冤罪(えんざい)が晴れるまで両親の墓前に手を合わせ

ない。」とおっしゃっていた石川さん、さぞ無念だったことでしょう。再審請求については、妻の早智子さんが受け継ぐそうです。石川さんの願いをかなえたいと感じます。その再審請求をめぐる情報については、今後、本誌でも紹介していきたいと思えます。

(参加者アンケートより)

- ・何十年も獄中で過ごしながらも「良かった」と言い切れる強さはどこからくるのだろうか？と感じた。桜井さんも、杉山さんも亡くなられたのですね。ぜひ生前のこの映画を大切に上映して欲しいと思えます。
- ・国家権力は理不尽なことが多く、とてもつらい人生を送られたこと、とても心が痛みます。
- ・最後の「信じることを夢見て始めるしかない」印象的でした。親に会えないことの辛さだけはほんと辛かった、と話されること、お墓には再審請求が認められるまでは行かない、、に、涙がこみ上げました。困難を乗り越える力(レジリエンス)のすごい方で決して許されることのないことを、良かったと笑ってとぼすすごさ。とても人の域を超えた人生。パワーと感謝をいただきました。

## 女性の健康セミナー ～毎日をもっと快適に～

3月1日～8日は「女性の健康週間」、3月8日は「国際女性デー」であることから、昨年も大人気だった女性の健康セミナーを開催しました。昨年同様キャンセル待ちが出るほど人気の本セミナーは、花王グループカスタマーマーケティング株式会社と第一生命保険株式会社との公民連携講座として、人権政策課と健康推進課の共催にて本セミナーを開催しました。

セミナーの開催前に、参加者には血管年齢測定機や第一生命保険株式会社より本セミナー用に提供いただいた肌年齢測定機を利用し、ご自身の現在の状態を知っていただき、前半は、花王グループカスタマーマーケティング株式会社より温活（血流促進）について、後半は、健康推進課の保健師より血管年齢・女性特有の病気について、管理栄養士より食事・食生活について、お話しいただきました。

（参加者の感想）

・思ったよりも測定結果がよくなかった為、今日お伺いしたお話を参考にして血管や肌を若々しく保ちたいと思います。

・基礎代謝が低いので温活で改善していきたいです。

〈当日の様子〉



## ～八尾市人権啓発推進協議会 第5回人権啓発推進委員養成研修～

テーマ：高齢者の人権

タイトル：「8050 問題の現状と課題

～複合的課題を抱える世帯への支援～

講師：梅花女子大学 文化表現学部

情報メディア学科 教授 綾部 貴子さん

日時：2025（令和7）年2月10日（月）

10:00～12:00

場所：八尾商工会議所3階 大ホール2

八尾市人権啓発推進協議会は、差別のない明るいまちづくりの推進に向け、さまざまな取り組みを進めており、各地区福祉委員会に5名置かれている「人権啓発推進委員」の人権意識の高揚を図ることを目的として、毎年、年5回「人権啓発推進委員養成研修」を実施しております。

第5回は、「高齢者の人権」をテーマに、「8050問題の現状と課題 ～複合的課題を抱える世帯への支援～」とし、梅花女子大学 文化表現学部 情報メディア学科 教授 綾部 貴子さんにご講演いただきました。「8050問題」とは何か、「8050問題」の世帯に対して地域としてどのように支援をすればよいかなどをお話

しされ、高齢者をはじめとした、複合的課題を抱えた世帯への支援について理解を深めることができました。

【参加者の感想】

・8050問題は、他人事ではない。自分事で考えていくことが大事であると思いました。

・人とかかわりが大切である。声かけ運動が大切と思う！まずは自分が元気に少しでも地域活動に頑張っていきたいと思います。

・8050問題について、色々と考えさせられました。町会長や包括と協力して、支援していけたらと思います。ありがとうございました。

・たいへんわかりやすく、勉強になりました。ひとつとでなく、誰でも可能性のある課題で、どういった支援ができるのか考えさせられました。多くの人に聞いて欲しいと思いました。



# 拉致問題映画上映会

日時：2025（令和7）年1月16日（木）  
14:00～15:30

タイトル：アニメ「めぐみ」・「拉致被害者御家族  
ビデオメッセージ」上映会

場所：八尾市文化会館プリズムホール  
地下2階小ホール

共催：政府拉致問題対策本部・大阪府・八尾市

1977年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の模様を描いたアニメ「めぐみ」、および1970年代から1980年代にかけて多くの日本人が北朝鮮に拉致され、その被害者全員の帰国が実現していない中、現在も肉親との再会を待ち続け、辛い日々を過ごす御家族の切なる思いが込められたビデオメッセージが上映されました。



（参加者アンケートより）

・身内に拉致された人がいれば、とても悲しくて胸がしめつけられますが、本当に拉致されたご家族は計り知れないことと思います。国（政府）ももっと力を入れて解決して欲しいです。

・拉致とは当たり前の日常が壊され、心に深い傷が残ることだと思いました。一刻も早く、帰国して、親族と会える日が来る事を願ってます。

・ブルーリボン活動初めて知りました。長い年月が経過し、未解決な拉致問題を知り、ご家族の方の思いに胸が痛みます。一日も早く帰国できるよう願います。など

## 拉致問題を考える写真パネル展

また、当日は、プリズムホール1階光のプラザにて、7名の拉致被害者の幼少期からの写真や情報、八尾市在住の特定失踪者の写真や情報が掲載されたパネルを掲示し、「拉致問題を考える写真パネル展」を開催しました。

多くの方が熱心にパネルを見学されていました。

## 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会市民委員募集

本市では、人権尊重のまちづくりの実現に向けた施策を総合的に推進するため、令和7年度に「（仮）第3次八尾市人権教育・啓発プラン」の策定を予定しており、施策推進に関する取り組みを検討する市民委員を募集します。

- 募集人数 11名程度
- 期間 令和7年8月（予定）から令和8年3月末まで（会議は期間中8回程度）
- 応募資格 (1) 18歳以上の人  
(2) 八尾市在住・在勤・在学の人  
(3) 本市の他の審議会などの公募市民委員でない人  
(4) 人権教育・啓発の推進に関心のある人
- 応募方法 人権に関する800字程度の作文の提出が必要となります。

◎委員募集の詳細は、市政だより6月号での掲載を予定しております。

# 白根さんと考えよう! 世界の人権52

国際NGO「CCPR センター」「ISSYO」所属 白根大輔

## 死刑と人権

先日開催された国連人権理事会第58会期で、死刑制度と司法の役割に関するパネルディスカッションが開催され、その中で国連人権高等弁務官、フォルカー・テュルクは「死刑制度は21世紀にはあってはならない行為だ。犯罪学者や専門家たちは、死刑制度が無実の人々の処刑につながることを疑う余地なく示している」とし、死刑廃止の動きは世界的に勢いを増している、そして、それは人間の尊厳や生きる権利と相容れないものであり、国連は政策として、あらゆる形で死刑制度に反対しているとしました。

世界全体を見ると死刑制度を廃止または停止している国、廃止に向かおうとしている国が確かに多くなっています。今年4月に発表されたアムネスティ・インターナショナルの報告書によると、2024年、死刑執行を行なった国は総数15（中国、イラン、サウジアラビア、イラク、イエメン、ソマリア、アメリカ、エジプト、シンガポール、クウェート、オマーン、アフガニスタン、北朝鮮、シリア、ベトナム）で、2年連続最小となっています。国連総会では2007年から死刑執行停止に関する決議が定期的に採択されていますが、この決議を支持する国は毎回増加し続け、2024年12月に10度目に採択された決議では、国連加盟国の3分の2以上が賛成票を投じるにいたりました。

一方、死刑判決の数や執行数は、公開されていないデータを鑑みても、減少傾向にあるとは

言えません。アムネスティによれば、2024年に世界中で執行された死刑の数は確認できただけでも1500を超え、1634人の処刑が記録された2015年以来、過去10年間で最高レベルに達したとされています。そのうち最も多くはイランで少なくとも972人、続いてサウジアラビアが345人、イラクが63人、イエメンでは38人、ソマリア34人、そしてアメリカでは25人となっていますが、執行数の減少が確認されたのはソマリアだけでした。加えて中国では死刑に関する情報が国家機密として扱われているため、データは非公開、具体的数字は分かっていませんが、2024年には千人以上が処刑されたと推定されています。さらにアフガニスタン、ベトナム、北朝鮮、シリアも同様で、データはないものの、死刑執行が行われたことが推定されています。確認されたもののみでも1日に少なくとも4人、推定されたものを含めると1日に少なくとも7人が世界のどこかで処刑されていることになります。

自由権規約第6条は、意図的な殺人等、「最も深刻な犯罪」に対してのみ、死刑が課されることを許容していますが、アムネスティの報告によれば2024年に執行された死刑のうち40%以上は、薬物関連犯罪（中国、イラン、サウジアラビア、シンガポール）に対するものであり、薬物関連犯罪は複数の国で死刑対象であり、実際に2024年には少なくとも13カ国で337の死刑が薬物関連犯罪に対して課されています。また汚職などの経済的犯罪（中国、ベトナム）、宗教の冒涇（パキスタン）、婚外の性的関係（イエメン）なども死刑対象犯罪となっている国もあります。さらに多くの死刑のケースでは、判決に至る過程も、司法の独立、法の下での平等、そして公平裁判等の観点から問題視されています。

死刑という制度は果たしてどこまで、そして何のために誰が必要としているのでしょうか。



出合いを楽しんで  
PART,2  
「絵本との出合い」  
中辻 えり子

「読書会に参加しませんか？」と友人から声がかかりました。近くに小さな本屋さんが出来ていることは知っていましたが、入ったことはなく、月1回「読書会」をしていたことも知りませんでした。まだ仕事をしていて、ゆっくり本を読むことがなかったこともありました。本屋さんのお名前は「喫茶もできる小さな本屋 reading nook TALES テイルズ」です。

見せてもらった本は絵本で、アーノルド・ローベル作「ふたりはともだち」でした。小さな本で、絵も多く描かれていて、読みやすそうでした。5つのお話で構成された絵本のはじまりは「はるがきた」。内容を紹介しますと…

かえるくんは、がまがえるくんの家を大急ぎでたずねるが、真っ暗な部屋のすみのベッドで寝ている。「がまくん、がまくん、はるがきたんだよ！」「お日さまがキラキラしているんだよ！」と知らせるが、がまくんは起き出さない。4月になっていて、かえるくんはカレンダーを11月から破いてめくって、4月を過ぎて5月に。「おやおや 5月だ。」とがまくんがベッドからはいおりてきた。「それからふたりは、はるになると、よのなかがどんなふうに見えるか それをしらべに そとへでていきました。」と締めくくられる。

日程が合わず、読書会には行けませんでした。なかよしふたり（2匹）のお話がほのぼのとして、図書館で「ふたりは きょうも」「ふたりは いっしょ」も見つけました。

出かけた「読書会」2月の図書は「馬ぬすびと」（平塚武二作、太田大八絵）。貸してもらった本の挿絵は数枚で絵本ではありません。文章は簡潔で力強く、絵も印象的で引き込まれました。

「源頼朝が征夷大將軍になった年に打ち首になったことを尼が書き残している」と書き出しのあと

の本文では、「馬ぬすびと」となり、今から死ぬ（打ち首になる）前に話しておくのだと、主人公が話を始めていきます。

名前は「九郎次」。貧しい百姓に生まれ、野を駆ける馬（「九郎」と名付ける）に魅せられる。13歳で家を離れ15歳でうまや番になり、馬の世話をすることから色々なことを知ることになっていく。「馬と顔を見合っていたら、どんなことも話してくれる。よくばらぬ知恵、うそぎらい、考えぶかさ、がまんづよさ、それを教わったのだ。」「馬であろうと牛であろうと、人間に使われて苦しむために、この世に生まれ来るわけがないからだ。」「さむらいが天下をとれば、さむらいが天下をおさめる。それはなんのふしぎはないが、考えてみるほど、不思議なことだ。見たことも聞いたこともないさむらいたちが、おれたちの知らないところでいくさをして、勝った負けたで天下をとる。ただそれだけのことではないか。」

うまや番を抜け出して、馬ぬすびと（武蔵丸）や妹（ふき）達と暮らす生活は「ひとにかくれたくらしだったが、毎日のはたのしかった。みんなが心をひとつにして、助け合っているくらし、わけ合っているくらし、夜は炉ばたで、もえる火をかこんでの話し合い。うまれてはじめて、おれはこんなくらしを知った。」

捕らえられた「九郎」を逃がそうと「人のいのちは、夢を追うことにかけるものだ。」と悟り、「九郎」を見つけた時「おれの目と「九郎」の目が、カッチリあった。その時の「九郎」の目のかがやき。それがおれの心をさしつらぬいた。それから何をしたか覚えておらぬ。」「しばられて、おぬしたちの前に座っているのだ。馬ぬすびとのほうがかけ値なしのぬすびとか、それとも、頼朝大將のほうがぬすびとか、それはいつか分かるだろう。」…最後に「おれの蓑を「ふき」に着せかけてやればよかった」。

子どもが生まれてからは、絵本に触れる機会が多くありました。孫が生まれて、絵本を買ったり家にあった本を手渡したりはしていましたが、物語や小説を読む機会は減っていました。その後も本を買うことはありましたが、絵本を「読む」ことがなくなっていました。本を「読む」時間は自分で作っていくものだと、あらためて気づいたところでした。



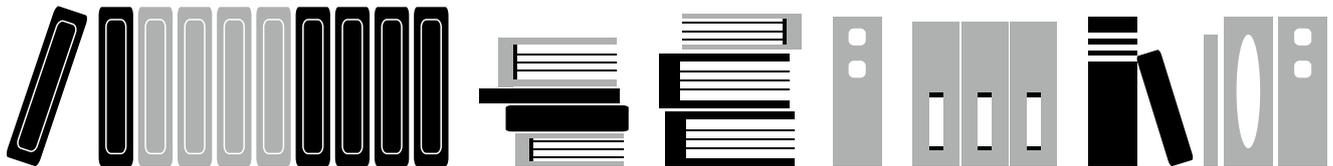
春になりましたね。新しい環境がスタートしてそわそわ、わくわくがあふれる季節。そんな新しい環境に馴染んでいく過程で欠かせないのがコミュニケーション。得意な人もいれば、苦手な人もいますよね。とくにね、「何度説明しても通じない」という感覚が、コミュニケーションへの苦手意識をどんどん膨らませてしまうんですよね。努力して何度も説明しているのに、ぜんぜん伝わっている気がしない…あの絶望感は、経験したことがある人ならめっちゃ解りますよね。

今回はそんなあなたに手に取ってもらいたい本をご紹介します。知人が「子どもの担任に何度話しても通じない...」と思っていた時に読んで、コミ

ュニケーションの枠組みがそもそも違っていたのか、と納得した」と教えてくれた本。それが『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか?』。この本では、話しても伝わらない理由について認知機能を基に解説し、事例を交えながら、そのメカニズムを解きほぐしていきます。読んでいるうちに「あー、なるほど」と思える部分が見つかるかも。

理解し合うことの難しさに絶望しちゃうながらも、コミュニケーションを諦めないあなたをそっと後押ししてくれる一冊です。

「何回説明しても伝わらない」  
はなぜ起こるのか?  
今井むつみ 著  
日経 B



## 八尾市人権尊重の社会づくり審議会市民委員募集

本市では、人権が尊重され、ともに認め合い、幸せに暮らせる社会を実現するために、人権尊重の社会づくりに関する事項について、意見を聴く市民委員を募集いたします。

- 募集人数 3名程度
- 期 間 令和7年9月(予定)から2年間(会議は年2回程度)
- 応募資格 (1) 18歳以上の人  
(2) 八尾市在住・在勤・在学の人  
(3) 市議会議員・市職員・他の審議会などの公募市民委員でない人  
(4) 人権教育・啓発の推進に関心のある人
- 応募方法 人権に関する800字程度の作文の提出が必要となります。

◎委員募集の詳細は、市政だより7月号での掲載を予定しております。

# ママにおしゅべり シネマ vol.60



イベリン：彼が生きた証  
(2024年 ノルウェー)  
監督 / ベンジャミン・リー

**E:** 今回この映画について話したいと思ったのは、オンラインゲームで知り合って事件に巻き込まれるこどもがニュースになってたり、身近にいる中学生がゲームのチャットが気になってスマホを手離せなくなってるのを見てるから。

**O:** やりたい時に参加者を募って知らない人と協力したり対戦したり。チャットも楽しいらしいね。仲間意識から安心するみたいだけど、私はリスクにばかり目がいってしまう。

**K:** なりすましの危険あるあるでしょ？チャットのやり取りが本当か嘘かなんてわからない。もちろんゲームがきっかけで出会えて良かったと思う人もいる。障がい者にとってもゲームの世界は素晴らしいと、このドキュメンタリー映画は教えてくれます。

**O:** 主人公のマッツの誕生から25歳で亡くなるまで、家族の愛情に溢れた映像がいっぱい。彼はデュシェンヌ型筋ジストロフィーという難病でだんだん身体の筋肉が衰えて、できなくなることもばかり、、、彼の寂しげで辛い状況も映ってたね。

**E:** 車椅子で指先がかろうじて動かせる状態になるとパソコンでゲームばかり。死に向かうマッツを見てるしかないなんて、家族も辛いよ。

**O:** で、それからですよ。マッツのブログサイトで亡くなったことを報告するとたくさんのお悔やみメッセージが届くようになった。友達と遊んだり恋人と付き合ったり、他の若者がやるような経験は一切なくて、不憫に思っていた息子。

**K:** それは勝手な思い込みで、ネット上のマッツはたくさんの人に愛されていたとわかりました。「ワールド・オブ・ウォークラフト」っていうRPGは世界中とつながっていて、マッツはイベリンというアバターになって走り回ったり、いろんなキャラクターと出会ったり、恋もしてたなんて。感激です。

**E:** 現実にはパソコン操作もやっとで、オフ会に誘われても本当のことが言えなくて参加できなかったんだよ。でもゲームの中では愛され頼られる特別な存在。恋で悩んだり青春してたよね。彼はとても誠実で、現実では思い通りにならないもどかしさや苛立ちもあった。

**O:** 「イベリンに助けられた」「彼の存在は大きかった」なんてほんとに泣けてくる。マッツは知らない誰かの特別な人で、確かに生きていた。家族にも知って欲しかったのかな、ブログのパスワードをわかるように残してたもね。

**E:** というわけで。こんなに世界と繋がって、友達もできて、現実では厳しくても自分を表現できる世界はいいじゃないか。本音で話せる安心で特別な居場所だね。嫌だったらやめればいい。イベリンみたいに急に居なくなることもある。

**K:** 結局、使う人に任せるしかないのでしょうかね。人を疑ってばかりじゃ仲間になれないし、信じすぎても危険だし。オフ会に誘われても、単独で会わなきゃいいんでしょ。アバターの世界で別人になる。やってみようかな、私はぜーったい大丈夫だから。

**O:** それって、いちばんあぶないかも！

海田 若菜

## 〈私の精神病の歴史〉

(本誌 116 号「勝手にきゅらふる 80」の続き)

その年の3月、私は大阪市内にある総合病院の神経内科に入院することになりました。主治医も病棟の看護師さんも優しく、病棟の決まりも少なかつたため、ゆっくりと過ごすことが出来ました。この入院中、私の母は毎日毎日病院に来てくれて、私のそばに居てくれました。私は母と離れたくなくて、主治医に外泊許可を貰っては実家に帰っていました。

そして、3月は旅立ちの季節です。私は病院から外出届を出して、大学の卒業式に出席しました。久しぶりに会う友達はみんな進路が決まっていて「〇〇に就職するよ」とみんなが話している中、私は就職どころか、今後いつ社会復帰出来るのか見通しすら立っていませんでした。私は身の置き所がないような感覚に陥りました。無事に卒業出来たのだから、今はそれを喜ぼう、と自分に言い聞かしたのを覚えています。

大学を卒業し、病院を退院してから私はどこにも行く所がなく、やることも居場所もありませんでした。作業所やデイケア等を紹介してもらえず、存在自体もほぼ知らなかったため、ここからどうやって社会復帰して行けばいいのか道が分かりませんでした。入院で整えた早起きも、家にずっと居ると昼夜逆転しやすく、毎日なんの目的も持たずに1日1日が過ぎて行ってしまいました。病気の症状でもある理由のない漠然とした不安が襲って来ては、のたうち回りながら出口を探していました。

2025 年ご案内

# じんけん楽習塾

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ



じんけん楽習塾は1998年から続いている人権学習講座です。「じんけん」は「他人ごと」でなく、「自分ごと」です。ここにはワークショップで人権を学びたい人、ファシリテーターのスキルを学びたい人、人権学習を企画する人、いろいろな人が集まってきます。出会いが楽しみなのも楽習塾の魅力です！みなさんも参加してみませんか？参加お待ちしております！

- 日時** 2025年5月～7月 全6回 水曜日 18:30～20:30(最長)
- 参加費** 6回通し…3000円(学生2000円) 1回…700円(学生500円)
- 場所** 八尾市文化会館(プリズムホール)4F研修室 近鉄八尾中央出口徒歩約5分

◆事前申込：QRコード(右)をよみとって申込みください。  
電話、FAX、メールでもお申込みできます。



申込フォーム

- メールでのお申込みは、お名前、メールアドレス、所属、連絡先、一時保育の有無、会場かオンライン参加のいずれかをご記入の上、お送り下さい。
- 一時保育あり：1歳～10歳(無料)申込みは各回の15日前まで。申込フォームに記載をお願いします。電話での申込は八尾市人権協会までお問い合わせ下さい。

◆Zoom配信 各回Zoom配信いたします。参加費は無料です。ただし、視聴のみになります。会場でのグループワーク時も視聴になりZoom内でのグループワークは原則ありません。ご了承の上、ご参加下さい。

5/14 第1回  
「ジロジロ」差別から深める  
外国人への差別問題  
～問題を自分たちに引きつけながら考えるために～  
森実さん(識字・日本語連絡会)

5/28 第2回  
核時代を生きる当事者としてできる  
核兵器をなくすための選択  
倉本芽美さん(KNOW NUKES TOKYO 共同代表、  
核兵器をなくす日本キャンペーン 学生スタッフ)

6/11 第3回  
セックスワークイズワーク  
風俗業に対する差別  
村上薫さん(現役風俗嬢)

6/25 第4回  
「部落フェミニズム」を書く、読む、語る  
瀬戸徐映里奈さん(近畿大学人権問題研究所教員)  
坂東希さん(大阪公立大学教員)  
熊本理抄さん(近畿大学人権問題研究所教員)

7/9 第5回  
ジェーン・エリオットの  
「差別体験・ワークショップ」から学ぶ  
富岡美知子さん  
(異文化コミュニケーション・トレーナー)

7/23 第6回  
立ちどまり考える時間  
～時事ネタから私と社会を振り返る～  
大谷眞砂子さん  
(じんけん楽習塾・NPO法人シスターフッド大阪)

■問い合わせ

一般財団法人八尾市人権協会 TEL 072-924-9853 FAX 072-924-0134 mail oyaoya@oyaoya.org